

ヒト免疫不全ウイルス抗体検査で陽性を示した事例について

安部真理子 斎藤 博之 原田誠三郎

平成15年6月12日付けで大館保健所からヒト免疫不全ウイルス（HIV）抗体検査の依頼があり、その検体を HIV 抗体スクリーニング検査用キット（ダイナスクリーン HIV-1/2）で実施した結果、陽性バンドが認められた。さらに、確認検査をウェスタンブロット法（ラブ ブロット 1）で実施した結果、HIV 抗体に特異的なバンドが確認されたことから HIV-1 陽性と判定された。また、依頼された性器クラミジア抗体及び梅毒抗体は陰性であった。

秋田県においては、厚生労働省通知の改訂（平成14年3月27日付け）後、初めて HIV 抗体陽性者が確認された。

キーワード：エイズ、HIV 抗体検査、ウェスタンブロット法、性感染症

I はじめに

日本国内では平成15年の HIV 感染者640人とエイズ患者336人が報告され、過去最高となった¹⁾。

秋田県内では、平成15年に HIV 感染者1人とエイズ患者2人が報告されている。また、県内の平成4年からの累計では、HIV 感染者10人及びエイズ患者7人となった²⁾。

秋田県では、平成14年3月27日付けの厚生労働省通知により、HIV 抗体検査及びエイズに関する相談事業を実施してきたが、さらに平成14年7月14日から「性感染症検査事業」並びに「ウイルス肝炎検査事業」を加え、これら感染症の蔓延防止及び発生の予防等を図る目的で3事業が包括して施行された。

平成14年7月から平成16年3月までに県内の各保健所から依頼された HIV 抗体、性感染症及びウイルス性肝炎について検査を実施した結果、平成15年6月12日付けで大館保健所から依頼された検体が HIV 抗体陽性を示したので報告する。

II 材料及び方法

1. 材料

1) 被検血清

(1)採血年月日：平成15年6月12日

2. 方法

1) 検査使用キット

HIV 抗体検査

(1)スクリーニング検査…ダイナスクリーン HIV-1/2（ダイナボット社）

(2)確認検査（ウェスタンブロット法）…ラブ ブロット 1（富士レビオ社）

性器クラミジア抗体検査

ヒタザイムクラミジア IgA,IgG（カイノス社）

梅毒抗体検査

(1)SST 抗原（ヤトロン社）

(2)エスプライン TP（富士レビオ社）

2) 検査方法

搬送された血液は3000rpm20分遠心し、その血清を検体とした。

検査方法は各キットの取り扱い説明書に準じた。

III 結果及び考察

HIV 抗体スクリーニング検査用キット（ダイナスクリーン HIV-1/2）を用いて検査を実施した結果、判定ラインに陽性バンドが確認された。このことから、図1に示した術式にしたがって、ラブ ブロット1（ウェスタンブロット法）を用いて確認検査を行った。図2にその結果を示した。検体（S）の他に陽性コントロール（P）、陰性コントロール（N）についても同時に検査を実施した。その結果、HIV 抗体に特異的なエンベロープバンド（GP160,GP120/110,GP41）が認められ陽性と確認された。今回のように、HIV スクリーニング検査で陽性となった場合、偽陽性も考えられることから確認検査を実施することになっている。本事例では、スクリー

図1 ラブ ブロット 1（ウェスタンブロット法）

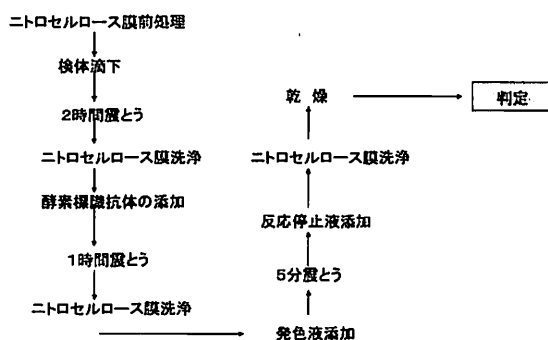
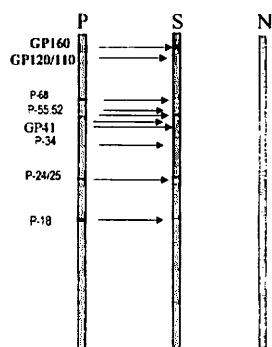


図2 ラブ プロット1 (ウエスタンブロット法) による検査結果



ニング検査で陽性となった時点で依頼保健所にスクリーニング陽性の結果を報告した。また、検査依頼日（6月12日）から告知日（6月24日）まで日数があつたので、報告がスムーズに実施できた。報告を受けた保健所では、エイズ拠点病院と連絡をとりながら、その後の対応を行った。また、HIV 検査時に依頼された梅毒 SST 抗原による抗体検査、梅毒 TP 抗体による抗体検査及び性器クラミジア抗体検査の IgA 抗体、並びに IgG 抗体は共に陰性であった。

今回の事例では、HIV 抗体のみが陽性であり、性器クラミジア抗体及び梅毒抗体は陰性であったが、性感染症のなかでも特に性器クラミジア感染症が近年全国的に増加傾向にある³⁾。秋田県においても、平成14年7月から平成16年3月までに当所で検査した性器クラミジア抗体の IgA 抗体もしくは IgG 抗体どちらかが陽性となった割合は27%にも及んだこと⁴⁾、またこれらの性器クラミジア等の性感染症では HIV 等のウイルスに対して感染する危険性が高いことが指摘されている⁵⁾ことから今後もこれらの検査では迅速な対応に努めていきたい。なお、秋田県では平成16年10月から東北で初めて HIV 即日検査を県内4保健所で実施している。平成15年度の当所における HIV 抗体検査は79件であった。一方、全国の保健所間の HIV 抗体検査の年間検査実施数の差は大きく、201件を超える施設は全国で38箇所（4%）に対し、75%は年間100件以下であったことが報告されてい

る⁶⁾。また、保健所における無料 HIV 抗体検査開始からすでに10数年経過し、HIV 抗体受検者は横ばい状態であるが、HIV 抗体陽性者は年々増加傾向にある⁶⁾。本県で開始された HIV 即日検査が HIV 感染者の早期発見及び同感染者の医療機関への早期受診によって早期治療等⁷⁾につながることを願いたい。

IV ま と め

1. 平成15年6月12日付け依頼検体から HIV 抗体検査のスクリーニング検査において陽性が認められた。
2. ウエスタンブロット法による確認検査で HIV 陽性者を1名確認した。
3. 性器クラミジア抗体及び梅毒抗体は陰性であった。

文 献

- 1) 特集 HIV/AIDS 2003年, 国立感染症研究所, 病原微生物検出情報, 2004; No. 7. 168-169
- 2) HIV 感染者および AIDS 患者の都道府県別累積報告状況, 国立感染症研究所, 病原微生物検出情報, 2004; 5. 128
- 3) 野口 昌良, 産婦人科領域におけるクラミジア感染症, 臨床とウイルス, 2003; 31. 5. 351-357
- 4) 安部 真理子, 他, 特集関連情報, 過去5年間の性器クラミジア感染症の発生状況及び過去2年間の同感染症の保健所依頼検査数ならびに陽性数の推移-秋田県, 国立感染症研究所, 病原微生物検出情報, 2004; 7. 202
- 5) 木原 正博, 他, 日本における HIV 感染症の流行とそのリスク, 臨床とウイルス; 2003. 31. 4. 245-250
- 6) 保健所等における HIV 即日検査のガイドライン, 神奈川県衛生研究所, 平成16年3月. 1-2
- 7) 松下修三, エイズ治療の進歩と問題点, 臨床とウイルス, 2003; 31. 4. 264-271